



## ご挨拶

こんにちは、西沢ひろふみでございます。  
常日頃、私の活動に対しご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

昨年度は残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、私たちの日常の活動も大きく制限され、不本意な一年を過ごされた方も多くいらっしゃるかと存じます。とはいえ、今後はアフターコロナを見据え、しっかりと本市の経済再生に向けた諸施策を強気に押し進め、市民の皆様にとってより安全・安心に住める町を実現していかなければなりません。私も、その実現に向け、精一杯尽力してまいります。



この度、昨年の第3回定例会以降の市議会における活動の一端を市政レポートとしてまとめました。ご一読の上、ご意見等賜れば幸いです。

何卒、今後とも変わらぬお力添えを心からお願い申し上げます。

令和4年10月吉日

西沢ひろふみ 拝

## 令和3年10月6日 令和2年度決算等審査特別委員会 脱炭素社会の実現に向けて

**問** 世界中の国々がパリ協定に基づいて温室効果ガス削減に取り組む中、郡市長は、令和12年における温室効果ガスの平成25年度比35%削減、さらにその20年後にはカーボンニュートラルすなわち温室効果ガスゼロの実現を打ち出されました。その取り組みの一つとして、仙台都心再構築プロジェクトにおいて本市独自のグリーンビルディング整備の方針を定め、事業者建物にZEB(ゼロ・エネルギー・ビルディング)化や緑化の推進など、幅広く環境面への配慮を求めています。本市の本庁舎建て替えや市有施設の大規模改修などについてはより環境面に配慮した取組にすべきと考えます。しかし、この相当厳しい数値目標の実現のためには、市長、副市長の下、環境局が他局の上位に立ち、イニシアチブをとって脱炭素を押し進めていく以外には難しいと思います。市長は今後、組織のあり様も含めて、どのように取り組んでいかれるお考えなのか、伺います。

**答** 郡市長2050年ゼロカーボンシティ実現に向けましては、市民や事業者の皆様方との協働による取り組みはもとより、本市自らが率先してあらゆる事業において範を示すことが極めて重要と認識しております。地球温暖化対策は市政の幅広い分野に深く関わっておりますから、庁内の各局の施策に脱炭素という、このワードについて横串を刺して、各部署が一丸となって取組を推進することが不可欠であります。そのためには、環境局が庁内の脱炭素に関わる施策を網羅的に把握した上で、統括していくことが必要になると考えます。今後、環境局が先頭に立って、各局のより緊密な連携の下で全庁的な脱炭素の取組を円滑に進め、ゼロカーボンシティの実現に向けて牽引役となるように、私自身も意を用いてまいります。

## 令和3年12月15日 経済環境委員会

### 博物館閉館中における収蔵品展示のあり方

**問** 交流人口ビジネス活性化戦略の中間案が示されました。この戦略については、9月の第3回定例会においても別な角度から伺いましたが、この戦略がスタートする2022年4月から2年間は博物館が改修のため休館となっております。

<2ページ目へつづく>